



広報部理事 近藤 正行

日時 平成27年12月26日(火)午後0時
場所 CBC放送センター7階 スタジオ収録
放送日 平成28年2月4日(木)、2月11日(木)

1月26日(火)12時からCBCラジオにおいて収録が行われました。

今回の内容は、「土地の境界をどうやって我々土地家屋調査士が捜し出しているのか」(第5回)と「そこにあったはずの境界杭がなくなってしまった場合の事例と境界杭の大切さ」(第6回)でした。

土地家屋調査士ならではの仕事を簡単に説明させていただきました。

今回の収録にあたり、1月19日に先方から原稿が届きました。内容を確認して思ったのが「専門用語が多い」でした。ですから自分なりに表現方法を変えることにしました。具体的には、「聞いていて難しいと思われる漢字表現を使わずに、出来るだけひらがな表現を使う」、言い換えると小学生が聞いても分かるような表現に書き換えたのです。



1回目と2回目の収録合間の様子



事前打合せ中

我々、土地家屋調査士は、普段からどうしても専門用語を使いがちです。土地家屋調査士自体を知ってもらう折角の機会です。分かりやすい表現、伝わりやすい表現、聞いているリスナーをイメージした表現に徹してみました。例えば「家を解体する」という表現は、「家を取り壊す」という身近な表現に言い改めました。

また、原稿は文字です。文字での表現なら長い文章も良いかと思いますが、聞いている方は原稿を目で追わず、耳のみで聞き取る・・・ここに意識を向け、長い文章になりがちなところは、文章を短くして接続詞で文章と文章を繋いだり、句点を入れて息継ぎをすとか、あえて「間」を入れたり、そして、伝えたいキーワードはゆっくりと大きな声で丁寧に言葉に出したりしました。文章にメリハリを付けたと言えれば分かりやすいと思います。

加えて、「～します。」ではなく、できるだけ「～するんです」という会話口調の表現に変えました。その結果、収録が終わってから、スタッフや同席した愛知会の皆さんから良い感想をいただきました。

今回のラジオ収録は、自分でも楽しむことができ、自分らしさを出せたのではと思っています。収録最後の部分は原稿も読み終えてしまい、つボイノリオさんとの掛け合いにアドリブで柔軟に対応できた自分がいました。自分に『花丸』を付けてあげたい気分です(笑)。またこのような機会があれば、チャレンジしたいと思いました。



つボイさんと記念撮影

最後に、このラジオ放送、実は土地家屋調査士が四苦八苦しなながらトークしています。その辺りもイメージしながら、これからも聴いて下さいね！ありがとうございました。